

◆十番（大坪宏通）（登壇）奈良維新の会の代表大坪宏通でございます。議長のお許しをいただきましたので、質問をさせていただきます。

続いて、リニア中央新幹線について要望させていただきます。
この問題につきましては、先日の代表質問でも取り上げられており、山辺郡・奈良市選挙区選出の議員として思いを同じくするところがございます。私は、山辺郡・奈良市選挙区選出の議員としてももちろん、奈良市内に中間駅を設置すべきであるとの強い思いを持っておりますし、この場におられます山辺郡・奈良市選挙区選出の議員の皆様方も同じ思いであると思っております。ところが、昨年十二月二十六日に、県内の三十三市町村長など、中間駅の候補地を大和郡山市に一本化するよう求める提言書を知事に提出されました。このことは、奈良市長の姿勢にも問題があったと思います。仲川奈良市長は、就任当初は奈良市への中間駅設置には積極的ではありませんでした。奈良市への誘致には、熱意と、他市町村との協力が重要であるとは言ってもありません。しかしながら、今は、同じ思いを持つあらゆる方々の力が結集され、中間駅の誘致に向けて努力していくしかないのです。そして、地元の思いだけでなく、奈良を訪れる人々の利便性を考えれば、駅から出たところが観光地に近く、ここが奈良だとすぐにわかる場所であれば意味がないといった声もかなりあると聞き及んでおります。

このようなことから私は、リニア新幹線の中間駅は、奈良市以外ではあり得ないと主張させていただきます。さらに、奈良市への中間駅の設置は、奈良県をリニア中央新幹線が通ることが前提でありますが、現在、京都府側の動きが気になるところであります。中間駅の建設費用をJR東海が全額負担すると言った途端、京都府は中間駅の誘致活動を本格的に再開し、先月だったと思いますが、大阪府の松井知事が、大阪までの同時開通でなければ関西が沈没してしまう、大阪府もお金を出すので、経済界も協力してほしい、京都府にも協力を求めていくとの一部報道がなされたと聞いております。こういった報道がなされるのも、奈良県が関西広域連合に入っていないことが影響しているのではないかと私は思います。京都や大阪を中心とした地元関西におけるリニア中央新幹線をめぐる動きについて、これからは油断することなく注視していく必要があります。もちろん、リニア中央新幹線については、先日の本会議の場で知事が答弁されていたように、災害に対するリダンダンシーの観点から、国において昭和四十八年の基本計画に加え、直近の平成二十三年の整備計画においても、改めて主要な経過地が奈良市附近と決定されています。京都が何と言おうと、駅やルートについては既に決まったことであると私も認識をいたしております。また、県がこれまでも、三重県や両県の経済団体、リニア中央新幹線の沿線都府県で構成する同盟会などとともに、国やJR東海に対して、三重・奈良ルートの早期実現や全線同時開業の要望などを積極的に展開されていることは、私も評価をいたしております。しかし、全線同時開業を目指すことを考えると、リニア中央新幹線の終着駅とされている大阪府との連携、とりわけトップ同士の関係を強めていただきたいと思います。そのことによって、大阪府と京都府の連携といった言葉が、我々県民の耳に入らないように努力をしていただきたいと思います。そのためにも、リニア中央新幹線に対する奈良県の正当性を、これまで以上に積極的に関西に向けて発信していただくことが有効であると考えますので、強く要望をしておきます。

◎知事（荒井正吾）（登壇）十番大坪議員のご質問にお答え申し上げます。

リニア中央新幹線の奈良市附近駅についてご要望がございましたが、看過できない認識の誤りがあったように思いますので、奈良県の主張を県民にもっと言うようにというようなご意見もございましたので、あえて述べさせていただきます。

それは、関西広域連合に入っていないから京都がしゃしゃり出るんじゃないかといった類いのこととございます。この奈良市附近駅は、国の法律で決まり、JR東海がその法律のとおりすると言っているのを、京都市、あるいは関西広域連合参加者が広域連合で変えようと言っているものでございます。国で決まったものをひっくり返そうといったこととございますので、関西広域連合に入っていないことは、まことによかったこととございます。

◆十番（大坪宏通） 要望ですので、発言は要りません。

◎知事（荒井正吾） はい。看過できない要望であることを申し上げておきたいと思っております。そのとおりであると県民の方に思われるのは、誤解を与えることとございます。維新の会のトップの方にも、誤解を解くようによりしくお願い申し上げます。

以上でございます。平成26年 2月 定例会（第314回） 大坪議員